

附編 2 明治期の相双地方の漁業

1. 明治12年水産旧慣調について

「明治12年水産旧慣調」（以下「明治12年資料」とする。）は、明治12年に勸農局長から福島県に対して出された水産保護の儀に付いての布達に基づき、福島県浜通り地方の各郡役所が実施した漁業についての慣習や現行の状況についての調査報告である。資料は『福島県史 18』（宮島1970）ならびに『福島県歴史資料館研究紀要第4・5号』（村川1982・1983）に一部掲載されており、明治初期の採魚・漁場・漁法等が絵図入りで詳細に記載されている。特に、「漁法はほとんど変化をみることはなく、近世の漁法をそのまま伝えているものが多い」（村川1982）とされ、漁船の動力化以前の沿岸漁業・内水面漁業を伝える歴史資料・民俗資料としての価値は極めて高い。

今回、浦尻貝塚で確認された貝類・魚類の遺体資料を今後考察する上で、当地方の潜在的な漁法等を確認することが必要であることから、この資料を基に主にその漁場、漁期を整理することとする。

また、対象地は浦尻貝塚が所在する地域である相双地方とし、現いわき市は対象外とする（いわき市の旧榊葉郡地域も対象外とする。）相双地方とは、旧宇多郡（新地町・相馬市）、旧行方郡（南相馬市）、旧標葉郡（浪江町・双葉町・大熊町）、旧榊葉郡（富岡町・榊葉町）である。なお、前記文献に未載の明治12年資料の宇多・行方郡については南相馬市市史編纂係が福島県歴史資料館から複写した資料を用いた。

2. 明治12年資料の相双地方の水産資源

対象地で明治12年資料に記載された水産資源は次のとおりである。地方名については、「福島の海産動物方言集―魚の呼び名―」（福島県水産試験場1995）に従った。

魚類（沿岸）

アイナメ、アカウ（カサゴ?）、アンコウ、イワシ、ウナギ、エビ、カスベ（エイ類）、カナガシラ、カレイ、ギス（キス科）、クロカラ（カサゴ科）、サガ（アブラツノザメ）、ササガレイ、サメ、タイ、タラ、ハモ（アナゴ）、ヒラメ、マグロ、レンテ（エイ類?）

魚類（浦〔内水面〕）

ウナギ、スハ（ボラ小型魚）、セイゴ（スズキ小型魚）、ハイ（ウグイ）、サケ、マス

貝類（沿岸）・その他

アサリ、アワビ、タコ

魚種不明魚類（沿岸）

アカウヲ、キミ、タカブ、スセリ、ハト、ヒエリ

以下では、不明の魚種については、言及を行わないものとする。なお、キミは、宇多・行方郡ではアンコウ・レンテ（エイ類?）と同一の記載が多く、標葉・榊葉郡では、キミ・レンテ（エイ類）は、ヒラメ・アンコウ・サガ（アブラツノザメ）との同一漁法の記載が多い。アカウヲ・ヒセリ・ハトは宇多・行方郡でアイナメ・カナガシラ・サメ類・カスベ類と同じ項に記載されている。

また、サケ・マス漁は、宇多・行方の一覧表に記載がないことから整理対象として外しておく。ただし、明治12年資料の文章記載や民俗誌から、当地方で行われていたことは明らかである。

3. 明治12年資料の相双地方の沿岸漁法

- ・刺(差)網 宇多・行方郡ではカレイならびにアンコウ、レンテ（エイ類？）等の漁法として記載がある
- ・打瀬網 小型船1艘による風力を用いて網を引く漁法である。宇多・行方郡ではカレイの漁法として記載がある。
- ・請繰(受繰)網 小型船1艘による底引き網である。器具を用いずに引き上げることから手繰網とも言われる。宇多・行方郡ではササガレイ、カスベ（エイ類）の漁法として記載がある。
- ・地引網
- ・張逆網 4艘以上の船を用いる大規模な網漁である。檜葉郡でイワシのほか、サケ・マスの漁法として記載がある。
- ・延縄(縄張)
- ・釣り
- ・殻針 海中10ヒロほどの深さに貝殻をつけた30ヒロの縄に釣針をつけたものである。宇多・行方郡にカナガシラ・サメ等をとる5～6月の漁法として記載がある。

そのほか、特定種を狙ったタコ罠（瓶釣）、マグロ網、アサリ万鋏、アワビを採るナサシなどの記載がある。

4. 明治12年資料からみた相双地方の沿岸漁場と漁期

記載されている沿岸漁業の魚種ごとに漁場・漁期を表1のとおりまとめた。漁法は、宇多・行方郡と標葉・檜葉郡では記載が異なる。宇多・行方郡は全体をまとめた形で記載があり、標葉・檜葉郡では各村の魚種、漁場、季節とともに一覧表に記載がある。このため、表1の宇多・行方の漁法の記載は、全体でまとめて記載している漁法を記入した。また、市町村名のうち、南相馬市は合併前の旧市町単位の自治区に分別して示した。これを基に魚種ごとに漁場・漁期を確認していく。なお、福島県史（宮島1970）によると「当時もっとも重要であったのはいわし漁とかつを漁であった」とされる。

（1）イワシ

イワシ漁は広く宇多～檜葉までの多くの村で行われており、全て地引網で行われる。記載される距離はいずれの地域でもほぼ15町以内で行われる。漁期は、5・6月と9・10月の2つの漁期に限定される。

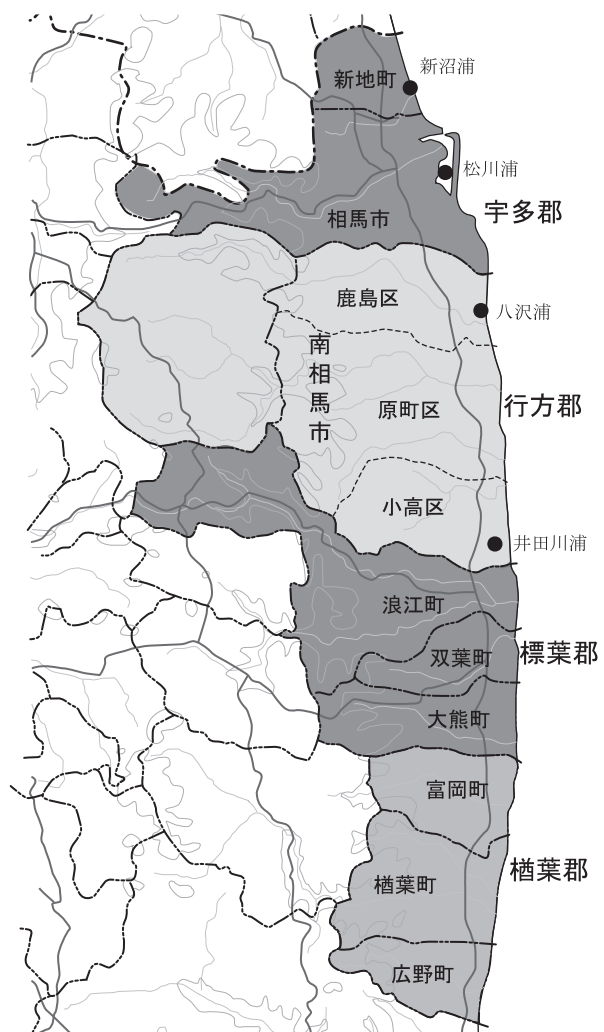


図1 相双地方全体図

(2) カツオ

カツオ漁も広く宇多～桧葉までの多くの村で行われており、全て釣漁である。距離は25里以内とあるが、ほぼ4～15里に収まり、10里前後が中心である。漁期は6～10月とあるが、中心は7～9月とすることができる。なお、明治12年資料の小名浜の項には、「該漁業ハ他ノ漁業ニ比スレバ頗ル危険ヲ冒サザルヲ得ズ・・・（中略）・・・五月初メニ漁ヲ為其時ハ魚未タ近海ニ至ラザルガ故ニ一葉ノ舟ニ乗ジテ五拾里外ニ出ルコトアリ・・・（中略）・・・六七月ノ頃ニ至ラバ陸ヲ距ルニ三里ニシテ大ニ漁スルヲ得ベシ其時ハ朝ニ出テ昼ニ帰帆スル事ヲ得」とある（宮島1970）。

表1 明治12年水産旧慣調より作成した相双地方沿岸漁業の内容

註) 漁獲高の※印は別欄記載の複数の魚種や漁期のものが合せて記載されたものであり、単独の漁獲高を示すものではない。

郡	村	現市町村名	漁法	魚種	距離（里）	月												漁獲高	単位
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
宇多	釣師浜	新地町	地引	イワシ	5～20町														
宇多	原釜	相馬市	地引	イワシ	10～20町													250	駄
宇多	磯部	相馬市	地引	イワシ	78町、15丁														
行方	南右田	鹿島区	地引	イワシ	5～6丁、10町													130	駄
行方	鳥崎	鹿島区	地引	イワシ	13丁													400	駄
行方	南海老	鹿島区	地引	イワシ	5～6丁、12～13町													102	駄
行方	下洪佐	原町区	地引	イワシ	5・6、10丁													60	駄
行方	北泉	原町区	地引	イワシ	5町、10丁													100	駄
行方	小浜	原町区	地引	イワシ	6・7丁、15町													4500	駄
行方	堤谷	原町区	地引	イワシ	5町、10丁													580	駄
行方	下浦	小高区	地引	イワシ	8町、15町													100	駄
行方	角部内	小高区	地引	イワシ	15町													450	駄
行方	塚原	小高区	地引	イワシ	10～20町													119	駄
標葉	棚塩	浪江町	地引	イワシ	6町													※140	駄
標葉	棚塩	浪江町	地引	イワシ	5～6町													※140	駄
標葉	中浜	浪江町	地引	イワシ	5町													※145	駄
標葉	中浜	浪江町	地引	イワシ	6町													※145	駄
標葉	熊川	大熊町	地引	イワシ	10町														
檜葉	仏浜	富岡町	地引	イワシ	6														
檜葉	毛萱	富岡町	地引	イワシ	6町														
檜葉	下北迫	広野町	地引	イワシ	6町													100	駄
宇多	釣師浜	新地町	釣	カツオ	10～25													9486	本
宇多	原釜	相馬市	釣	カツオ	1～2													3500	本
行方	鳥崎	鹿島区	釣	カツオ	13													4000	本
行方	南海老	鹿島区	釣	カツオ	13、15													700	本
行方	下洪佐	原町区	釣	カツオ	15、20													740	本
行方	北泉	原町区	釣	カツオ	15、20													1300	本
行方	小浜	原町区	釣	カツオ	12													2300	本
行方	堤谷	原町区	釣	カツオ	11													1800	本
行方	下浦	小高区	釣	カツオ	13													1200	本
行方	村上	小高区	釣	カツオ	4													1100	本
行方	角部内	小高区	釣	カツオ	4													300	本
行方	塚原	小高区	釣	カツオ	13													4926	本
標葉	請戸	浪江町	釣	カツオ	10～12													31464	本
標葉	中浜	浪江町	釣	カツオ	10～12													4019	本
標葉	郡山	双葉町	釣	カツオ	10～12													4500	本
標葉	大沢	大熊町	釣	カツオ	3、4、6													10	本
標葉	小入野	大熊町	釣	カツオ	8、10、13													1400	本
標葉	熊川	大熊町	釣	カツオ	7、5、13、													2710	本
檜葉	小良ヶ浜	富岡町	釣	カツオ	5、7、13													5500	本
檜葉	仏浜	富岡町	釣	カツオ	4、6、7													3945	本
檜葉	毛萱	富岡町	釣	カツオ	4～7													2520	本
檜葉	井出	檜葉町	釣	カツオ	4、8、10													9300	本
檜葉	波倉	檜葉町	釣	カツオ	5～6													※1050	本
檜葉	山田浜	檜葉町	釣	カツオ	5、10													1500	本

(表 1 つづき)

郡	村	現市町村名	漁法	魚種	距離 (里)	月												漁獲高	単位
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
宇多	釣師浜	新地町	網	カレイ	4													※ 23908	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	カレイ	5													※ 23908	枚
宇多	原釜	相馬市	網	カレイ	3													※ 72000	枚
宇多	原釜	相馬市	網	カレイ	3													※ 72000	枚
宇多	磯部	相馬市	網	カレイ	2													※ 7135	枚
宇多	磯部	相馬市	網	カレイ	6													※ 7135	枚
行方	南右田	鹿島区	網	カレイ	4													1500	枚
行方	烏崎	鹿島区	網	カレイ	3													7200	枚
行方	南海老	鹿島区	網	カレイ	4													4100	枚
行方	下洪佐	原町区	網	カレイ	1													1968	枚
行方	北泉	原町区	網	カレイ	1 0													1790	枚
行方	小浜	原町区	網	カレイ	5													4500	枚
行方	堤谷	原町区	網	カレイ	5													3200	枚
行方	下浦	小高区	網	カレイ	1													500	枚
行方	村上	小高区	網	カレイ	3													2500	枚
行方	角部内	小高区	網	カレイ	3													50	枚
行方	塚原	小高区	網	カレイ	1													1586	枚
標葉	請戸	浪江町	延縄	カレイ	5													3500	枚
標葉	棚塩	浪江町	打瀬網	カレイ	6													2000	枚
標葉	中浜	浪江町	打瀬網	カレイ	4													500	枚
標葉	郡山	双葉町	請繰網	カレイ	3													700	枚
標葉	小入野	大熊町	打瀬網	カレイ	3													4300	枚
標葉	熊川	大熊町	打瀬網	カレイ	8													7500	枚
檜葉	小良ヶ浜	富岡町	打瀬網	カレイ	4. 5, 5													11000	匹
檜葉	仏浜	富岡町	打瀬網	カレイ	2. 5, 3													2331	枚
檜葉	井出	檜葉町	打瀬網	カレイ	3. 5, 7													2000	枚
檜葉	波倉	檜葉町	釣	カレイ	5～6													※ 1050	本
檜葉	下北迫	広野町	刺網	カレイ	1 町													48	枚
標葉	棚塩	浪江町	打瀬網	ギス	6													3000	枚
標葉	中浜	浪江町	打瀬網	ギス	4													1500	匹
標葉	小入野	大熊町	打瀬網	ギス	3													5350	枚
檜葉	小良ヶ浜	富岡町	打瀬網	ギス	4. 5, 5													10000	匹
檜葉	下北迫	広野町	刺網	タイ	1 町													44	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	ヒラメ	4													※ 1519	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	ヒラメ	1													※ 1519	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	ヒラメ	2													※ 1519	枚
宇多	原釜	相馬市	網	ヒラメ	2 1													※ 64000	枚
宇多	原釜	相馬市	網	ヒラメ	3													※ 64000	枚
宇多	磯部	相馬市	網	ヒラメ	1													※ 4137	枚
宇多	磯部	相馬市	網	ヒラメ	6													※ 4137	枚
行方	南右田	鹿島区	網	ヒラメ	3													250	枚
行方	烏崎	鹿島区	網	ヒラメ	3													4100	枚
行方	南海老	鹿島区	網	ヒラメ	5. 5													500	枚
行方	下洪佐	原町区	網	ヒラメ	1. 5													2110	枚
行方	北泉	原町区	網	ヒラメ	1. 5													648	枚
行方	小浜	原町区	網	ヒラメ	7													2100	枚
行方	堤谷	原町区	網	ヒラメ	7													1500	枚
行方	村上	小高区	網	ヒラメ	5													1150	枚
行方	塚原	小高区	網	ヒラメ	9													1702	枚
標葉	請戸	浪江町	請繰網	ヒラメ	1 2													※ 1558	枚
標葉	請戸	浪江町	刺網	ヒラメ	1 2													※ 1558	枚
標葉	中浜	浪江町	請繰網	ヒラメ	1													150	枚
標葉	郡山	双葉町	請繰網	ヒラメ	6, 1 0													100	枚
標葉	大沢	大熊町	請繰網	ヒラメ	2 5 町, 3 0 町													※ 35	枚
標葉	小入野	大熊町	請繰網	ヒラメ	1 8 町, 2 0 町, 3 0 町													※ 90	枚
標葉	熊川	大熊町	刺網	ヒラメ	1 0														
標葉	熊川	大熊町	請繰網	ヒラメ	1 0 町														
檜葉	小良ヶ浜	富岡町	刺網	ヒラメ	4. 5, 7													400	枚
檜葉	毛萱	富岡町	刺網	ヒラメ	8													600	枚
檜葉	井出	檜葉町	刺網	ヒラメ	6～7													5000	枚
檜葉	井出	檜葉町	請繰網	ヒラメ	1, 1. 5													※ 500	枚
檜葉	波倉	檜葉町	刺網	ヒラメ	8, 1 0													560	枚
檜葉	山田浜	檜葉町	打瀬網	ヒラメ	3													12000	枚
標葉	中浜	浪江町	請繰網	カスベ	1													70	枚
標葉	郡山	双葉町	請繰網	カスベ	3													200	枚
標葉	大沢	大熊町	請繰網	カスベ	2 5 町, 3 0 町													※ 35	枚
標葉	小入野	大熊町	請繰網	カスベ	1 8 町, 2 0 町, 3 0 町													※ 90	枚
標葉	熊川	大熊町	請繰網	カスベ	1 0 町														
檜葉	井出	檜葉町	請繰網	カスベ	1, 1. 5													※ 500	枚
檜葉	下北迫	広野町	刺網	カスベ	1 町													123	枚

(表1 つづき)

郡	村	現市町村名	漁法	魚種	距離(里)	月												漁獲高	単位
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
標業	熊川	大熊町	打瀬網	カナカシラ	8													60	駄
檜業	仏浜	富岡町	打瀬網	カナカシラ	2.5, 3													3503	枚
檜業	井出	檜業町	打瀬網	カナカシラ	3.5, 7													1000	匹
檜業	山田浜	檜業町	打瀬網	カナカシラ	5													4000	匹
標業	請戸	浪江町	延縄	カナカシラ														2000	匹
檜業	井出	檜業町	延縄	アカウ	1													※500	匹
標業	請戸	浪江町	延縄	アイナメ	1													1000	枚
標業	請戸	浪江町	延縄	クロカラ	1													1500	枚
檜業	小良ヶ浜	富岡町	延縄	クロカラ	1, 2, 0町													1250	匹
檜業	井出	檜業町	延縄	クロカラ	1													2000	匹
檜業	井出	檜業町	延縄	ハモ	1													※500	本
宇多	釣師浜	新地町	網	カナガシラ・サメ・カスベほか	4町～15町													3030	枚
宇多	原釜	相馬市	網	アイナメ・カナガシラほか	1～3													133060	枚
標業	請戸	浪江町	刺網	アンコウ	12													841	杯
標業	熊川	大熊町	刺網	アンコウ	10													120	盃
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	アンコウ	4.5, 7													70	枚
檜業	毛萱	富岡町	刺網	アンコウ	9													130	杯
檜業	井出	檜業町	刺網	アンコウ	6～7													1500	杯
標業	請戸	浪江町	刺網	サガ	12													225	本
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	サガ	4.5, 7													40	本
檜業	毛萱	富岡町	刺網	サガ	12													80	本
檜業	下北迫	広野町	刺網	サガ	1町													73	本
標業	請戸	浪江町	刺網	タラ	12													570	本
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	キミ	4.5, 7													※50	枚
檜業	毛萱	富岡町	刺網	キミ	10													※115	枚
檜業	井出	檜業町	刺網	キミ	6～7													※500	枚
檜業	波倉	檜業町	刺網	キミ	8, 10													280	枚
行方	烏崎	鹿島区	網	レンテ	30													300	枚
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	レンテ	4.5, 7													※50	枚
檜業	井出	檜業町	刺網	レンテ	6～7													2500	枚
檜業	波倉	檜業町	刺網	レンテ	8, 10													560	枚
檜業	山田浜	檜業町	打瀬網	レンテ	4													25	枚
行方	下洪佐	原町区	網	キミ・レンテ・アンコウ	20														
行方	北泉	原町区	網	キミ・レンテ・アンコウ	20													500	枚
行方	村上	小高区	網	キミ・レンテ・アンコウ	10													700	枚
行方	角部内	小高区	網	キミ・レンテ・アンコウ	10													140	枚
行方	塚原	小高区	網	キミ・レンテ・アンコウ	15													319	枚
標業	請戸	浪江町	刺網	キミ・レンテ・アンコウ	12													255	枚
標業	熊川	大熊町	刺網	タカフ	10													17	枚
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	タカフ	4.5, 7													60	枚
檜業	毛萱	富岡町	刺網	タカフ	11													※115	枚
檜業	井出	檜業町	刺網	タカフ	6～7													※500	枚
宇多	釣師浜	新地町	まぐろ網	マグロ	2～3														
宇多	磯部	相馬市	まぐろ網	マグロ	18～30町													534	本
行方	烏崎	鹿島区	まぐろ網	マグロ	1													150	本
宇多	釣師浜	新地町	瓶釣	タコ	3～5														
宇多	原釜	相馬市	瓶釣	タコ	1(20町)														
宇多	磯部	相馬市	殻針	スセリ	20～26町													580	枚
宇多	磯部	相馬市	網	ハト	20～26町													350	枚
標業	熊川	大熊町	請繰網	ヒセリ	10町														
宇多	原釜	相馬市	アサリ万鉤	アサリ	1～2													400000	
宇多	磯部	相馬市	アサリ万鉤	アサリ	18町													81538	個
行方	烏崎	鹿島区	アサリ万鉤	アサリ	30丁													15000	
行方	小浜	原町区	アサリ万鉤	アサリ	28町													8500	
行方	堤谷	原町区	アサリ万鉤	アサリ	25町													17600	
行方	下浦	小高区	アサリ万鉤	アサリ	15町													1000	
行方	塚原	小高区	アサリ万鉤	アサリ	14町													4110	
宇多	磯部	相馬市	ナサシ	アワビ	7丁													585	個

(3) カレイ

カレイ漁も広く宇多～檜葉まで多くの村で行われている。漁法では、各種網漁のほか、釣漁、延縄漁もわずかにみられるが、これはカツオ漁、また後述するカナガシラ漁に伴ったと考えられ、カレイを主とした漁法ではなかったと考えられる。

網漁の漁期は1～6月が多く、特に3・4月が中心である。宇多・行方が1～5月、標葉・檜葉が2～6月とわずかな漁期の差があるほか、行方郡の鹿島区以北では11・12月にも行われており、以南との地域差がみられる。距離は1～10里の記載があるが、いずれの地域もほぼ6里以内に収まり、3～5里の記載が多い。

標葉・檜葉郡では打瀬網によるカレイ漁にギス（キス科）または後述するカナガシラが伴うことがみられ、少量ながら刺網ではタイ・カスベ（エイ類）も含まれることが記されている。

(4) ヒラメ

ヒラメ漁も広く宇多～檜葉まで多くの村で行われている。漁法は各種網漁がある。ヒラメの漁期・漁場は大きく3つに分類される。

宇多と行方の原町区北泉以北の漁期は2～11月の記載があるが、5～10月が多く、特に6～9月を中心とする。漁場は1～7里が多く、カレイ漁との大きな差はない。

行方の小浜以南は1～6月と9～12月の2つの漁期がみられる。このうち1～6月の漁期は刺網・打瀬網で行われ、宇多等よりやや早い漁期である。また、7～12里の漁場が中心で、カレイ漁や宇多等のヒラメ漁に比較し距離のある漁場と言える。

9～12月は請繰網で行われ、漁場も1里以内で行われることが多い。また、この9～12月の漁はヒラメのほかカスベ（エイ類）が伴うことが多く、ヒラメの漁獲量も少ない特徴が見られる。

(5) カナガシラほか

カナガシラ・アイナメ・クロカラ（カサゴ科）はまとめて記載されることがある他、同様の時期の漁法・漁期であることが多く、まとめて整理しておく。イワシほか前述の魚種に比較し、記載数は減少している。これらは漁法と地域により、漁期・漁場が異なっている。

標葉・檜葉では、1～6月に打瀬網でカナガシラ漁行われているが、これは前述のカレイ漁に伴うものである。このほか、標葉・檜葉ではカナガシラ・アイナメ・クロカラ（カサゴ科）を主として、アカウ（カサゴ?）、ハモ（アナゴ）、カレイが伴う延縄漁がある。漁期は、10～12月で距離は1里以内と近い。

宇多では4～11月に網漁が行われているが、1～3里以内の距離とやはり近い漁場である。カナガシラのほか、アイナメ・サメ・カスベ（エイ類）が伴う。

(6) アンコウほか

行方以南では、アンコウにはサガ（アブラツノザメ）、レンテ（エイ類?）などのほか、わずかにタラが伴う刺網を中心とした漁が行われている。漁期は1～6月で、3～5月が中心であり、距離は標葉・檜葉は4～12、行方では10～20里と遠い距離が多く記載されている。

(7) その他

マグロは宇多・行方の一部の村のみ6～8月に距離3里以内でマグロ網による漁が行われている。タコは宇多のみで5里以内の距離で9～11月に行われている。アサリは宇多・行方の比較的多くの村で記載があり、通年の記載と10～2月の記載がある。アワビは宇多の磯部のみで6～8月に漁が行われた記載がある。

5. 明治12年資料からみた相双地方の内水面（浦）漁場と漁期

宇多・行方郡に記載されている内水面（浦）の魚種・漁場・漁期を表2にまとめた。漁具等の解説があり、新沼浦・松川浦・八沢浦・井田川浦ほぼ同様である旨の記載がある。それぞれの村を面していた浦に分けて示した。浦の漁法として、ウナギ、エビ、雑魚（セイゴ、ウグイ、ボラ）の3つの方法が書かれている。民俗例としてはこれにシジミ漁の記述が多く認めることができ（佐々木2004・2006）、シジミ漁も多く行われていたと考えられるが、明治12年資料には記載がない。

表2 明治12年水産旧慣調より作成した相双地方内水面（浦）漁業の内容

郡	村	市町村名	河川・浦	魚種	月												漁獲高	単位
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
宇多	新沼	新地町	新沼浦	ウナギ													63400	貫、目
	長老内	相馬市	新沼浦														105	貫
	塚部	相馬市	新沼浦														30	貫
	駒ヶ嶺	新地町	新沼浦														120	貫
	今泉	新地町	新沼浦														10	貫
	和田	相馬市	松川浦														200	貫
	岩子	相馬市	松川浦														70	貫
	新田	相馬市	松川浦														117	貫
行方	浦庭	相馬市	八沢浦	ウナギ													9.5	貫、目
	柚木	相馬市	八沢浦														17	貫
	南柚木	鹿島区	八沢浦														170	貫
	北屋形	鹿島区	八沢浦														170	貫
	北海老	鹿島区	八沢浦														40	貫
	耳谷	小高区	井田川浦														40	貫
	行津	小高区	井田川浦														35	貫
	下浦	小高区	井田川浦														74	貫
宇多	蛇沢	小高区	井田川浦	エビ													75	貫
	浦尻	小高区	井田川浦														5	貫
	新沼	新地町	新沼浦														43.8	石、斗、
	長老内	相馬市	新沼浦														4.5	石、斗、
	塚部	相馬市	新沼浦														4.5	石、斗、
行方	駒ヶ嶺	新地町	新沼浦	エビ													8	石
	浦庭	相馬市	八沢浦														7.5	石、斗、
	南柚木	鹿島区	八沢浦														14	石
	北屋形	鹿島区	八沢浦														23	石
	北海老	鹿島区	八沢浦														1100	匹
	耳谷	小高区	井田川浦														2	石
	行津	小高区	井田川浦														3	石
	下浦	小高区	井田川浦														3	石
宇多	蛇沢	小高区	井田川浦	雑魚 (セイゴ、ウグイ、ボラ)													3.1	斗、
	浦尻	小高区	井田川浦														1.5	石、斗、
	長老内	相馬市	新沼浦														12300	匹
	塚部	相馬市	新沼浦														10300	匹
	駒ヶ嶺	新地町	新沼浦														12000	匹
	今泉	新地町	新沼浦														8500	匹
	和田	相馬市	松川浦														80000	匹
	岩子	相馬市	松川浦														50000	匹
行方	新田	相馬市	松川浦	雑魚 (セイゴ、ウグイ、ボラ)													9100	匹
	浦庭	相馬市	八沢浦														500	匹
	柚木	相馬市	八沢浦														500	匹
	南柚木	鹿島区	八沢浦														7000	匹
	北屋形	鹿島区	八沢浦														8000	匹
	北海老	鹿島区	八沢浦														3	石
	耳谷	小高区	井田川浦														1500	匹
	行津	小高区	井田川浦														2500	匹
宇多	下浦	小高区	井田川浦	雑魚 (セイゴ、ウグイ、ボラ)													3500	匹
	蛇沢	小高区	井田川浦														1300	匹

(1) ウナギ

ウナギには3つの漁法が記されている。ウナギカキは、湾曲した刃先を竹の柄をつけた道具で、泥の中にいるウナギを引っ掛ける漁法である。冬季の10月～翌3月までに行われたとの記載がある。ウナギドウは、ドウの中に餌をいれて沈めておく漁法である。5～6月に行われたとの記載がある。フクベは、竹筒を数本結び付けて沈めておく漁法である。季節は4～9月との記載がある。

漁法からは1年を通して行われたと考えられるが、表2をみると、いずれの地域でも4～9月を中心に漁が行われている。このことから、ウナギドウ・フクベがウナギの主な漁法であったと推察される。井田川浦のみ、冬季にも行われている。全体的な記載の中で、冬季のウナギカキ漁法があることから、他の地域でも行われていた可能性は高い。

(2) エビ

エビは細竹に笹を結んで、5～6日間後に引き上げてとる漁法であるとの記載がある。漁期は新沼浦で10月～3月、八沢浦で5～9月を中心とし12月まで、井田川浦で11月～3月である。八沢浦のみ夏季に漁を行っており、地域ごとの漁期の差が認められる。

(3) 雑魚（セイゴ、ウグイ、ボラ）

刺網により8～11月に漁をしたとの記載がある。表2をみると、漁期はおおむね7～11月前後であり、ウナギの漁期より若干遅い傾向が認められる。新沼浦・松川浦では8～11月、八沢浦・井田川浦では7～10月が中心時期であり、浦ごとの微妙な漁期の差も認められる。また、井田川浦のみ冬季の記載があり、ウナギ、エビ漁の記載と一致していることが興味深い。

6. 明治35年水産試験場の資料との対照

『福島県史 18』に明治35年の水産試験場のデータが記載されている（以下「明治35年資料」とする。）。ここには福島県全体の魚・貝・海藻の漁期、最盛期、産卵期が一括して掲載されている。明治35年は、動力船導入が進んでいない時期とされ（宮島1970）、明治初期の漁業と大きな差はないものと推察される。しかし、イワシ・カツオの減少等、乱獲ならびに環境の変化があったとされることや、前節までに対象としなかったいわき地方の内容も含まれた福島県全体の漁期が記載されていることから、先の明治12年の資料から得られた結果と正確な一致はみないものと考えられる。しかしながら、この資料には明治12年の中に含まれない魚種も認められることから、明治12年資料の不足する点を補うため、明治35年資料の記載内容を表3にまとめ、明治12年資料と比較対照しておく。

両資料がほぼ一致するものは、カツオ、カレイ、ヒラメ、アンコウである。カナガシラ・アイナメ・クロカラ（カサゴ科）は、明治35年資料では最盛期が3～5月であり、これは明治12年資料でカレイ等の網漁が行われる時期と考えられる。明治12年資料で延縄漁が行われたとする時期も漁期に入っている点も両資料が整合的といえる。マグロ・タコも大きな差はない。スズキは明治35年資料には7・8月の夏期が中心とされている。スズキは明治12年資料には沿岸漁業としては記載がないが、内水面漁業の中のセイゴ（スズキの小型魚）の漁期は夏期が中心とみられることから、両資料は一致していると言える。

逆に一致しないものとしてイワシがあげられる。イワシは12月～4月が最盛期となっており、明治12年資料の5・6月、9・10月の漁期と一致しない。これは地引網漁の衰退、漁法の変化の影響が大きいと推測される。

このほか、明治12年資料に記載が少ないことから、対比が難しいものとしてサメ・小サメがある。

イシモチ、タイ、ブリ、アジ、サバも明治12年資料に記載がない。明治35年資料によると、イシモチは1・2月、タイ・アジは5・6月、ブリは6～7月、サバは8・9月が最盛期となる。

また、貝も明治12年に記載が少なく、比較検討が難しい。明治35年資料では、冬から夏にかけて、ナマコ・カキ⇒アサリ・ハマグリ⇒シジミ⇒ウバガイ⇒アワビと最盛期が推移している。このうち、明治12年資料に記載があるのは、アサリ、アワビである。明治35年資料ではアサリは2～6月が漁期であり、3・4月が最盛期である。明治12年資料は冬季を中心とした10～2月と通年の漁期とあるので、この差が生じた理由は不明である。アワビはいずれの資料も夏期を中心としており、ほぼ一致する。

海藻類も相双地方では明治12年資料に記載がなく、比較検討はできないが、明治35年資料に、種によって漁期が異なることが示されている。

7. 明治期の相双地方の漁業

これまでの検討から、明治12年と明治35年はおおむね一致することから、これらのデータは整合性があり、これらのデータが当地方の動力船導入以前の漁業状況であり、現代漁業に比較し、縄文時代に近い漁場や漁期を示唆させるものと言えよう。

ただし、イワシ・アサリの漁期は大きく異なり、注意が必要であるとともに、明治35年資料は県内の地域差を無視した資料であるので、必ずしも相双地方の状況を示しているとは言えない。また当然記載されない漁や不明な魚種もあろう。

表3 明治35年福島県水産試験場事業報告より作成した漁期

種	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
サメ												
イシモチ												
アンコウ												
カレイ												
カナガシラ												
ヒラメ												
アイナメ												
クロガラ												
小サメ												
マグロ												
タイ												
ブリ												
カツオ												
スズキ												
イワシ												
アジ												
サバ												
タコ												
イカ												
ナマコ												
カキ												
アサリ												
ハマグリ												
シジミ												
イノカイ												
ウバガイ												
アワビ												
ノリ												
ヒジキ												
フノリ												
ワカメ												
アラメ												
カジメ												
ツノマタ												
テングサ												
マツモ												

—— 最盛期 —— 漁期

今回はこのような問題点があることを認識した上で、明治12年資料を中心に明治期の魚類等の漁場、漁期を表4のようにまとめた。明治35年資料だけ記載されているものは、明治35年資料をそのまま記載した。両資料に相違があるイワシは明治12年資料を記載した。

魚魚を中心にみると、浦ではウナギ漁がほぼ通年で行われるが夏期を中心としている。これにやや遅れてセイゴ（スズキ小型魚）・ウグイ・ボラの雑魚漁が夏期から秋期にかけて多く行われている。

明治期の中心漁業とされる地引網によるイワシ漁は、初夏、初秋の2度の漁期がある。もう一つの中心漁業である外洋でのカツオ漁は夏期を中心とする。同じ回遊魚であるブリ、アジ、サバなども主に夏期を中心として漁が行われるようである。その他の網漁・延縄漁は、カナガシラ・アイナメ・カ

表4 明治期の相双地方の漁業概要

種	月												距 離 (里)	漁 法	場 所
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
ウナギ													～1	フクベほか	新沼・松川・八沢浦
													～1	フクベほか	井田川浦
セイゴ・ウグイ・ボラ													～1	刺 網	新沼・松川浦
													～1	刺 網	八沢・井田川浦
エ ビ													～1	籠 浸	新沼・井田川浦
													～1	籠 浸	八沢浦
イワシ													～1	地 引	全
マグロ													1～3	マグロ網	宇多
タ コ													1～5	瓶 釣	宇多
カナガシラ・アイナメ・カサゴ科 (アナゴ・カレイ)													1	延 縄	標葉・檜葉
カナガシラ・アイナメほか (サメ・エイ類)													1～3	網	宇多
カレイ・キス科・カナガシラ (タイ・エイ類)													3～5	網	行方南部・標葉・檜葉
カレイ													3～5	網	宇多・行方北部
ヒラメ													1～7	網	宇多・行方北部
													7～12	網	行方南部・標葉・檜葉
カツオ													4～15	釣	全
アンコウ・アブラツノザメほか													4～20	網	全
イシモチ															明治35年資料
タ イ															明治35年資料
ブ リ															明治35年資料
ア ジ															明治35年資料
サ バ															明治35年資料
イ カ															明治35年資料

—— 最盛期 —— 漁期

サゴ科⇒カレイ⇒ヒラメの順に、より沿岸の漁場となっており、カナガシラ等とカレイが冬～春期、ヒラメは春～秋期が主な漁期である。その他に外洋でのアンコウ漁が春～夏期に行われている。

貝類・海藻は明治12年資料に記載が少ないため、明治35年資料を基準資料としておく。浦尻貝塚で多く出土するアサリ・ハマグリ・シジミは3～5月が最盛期であり、主に春期にその漁期があるが、ウバガイはほぼ通年であり、夏期が最盛期とされている。

ここで得られた明治期の漁業の内容は、漁獲高の比較や民俗誌を含めた他文献資料の検討を行っておらず、魚等の生態、自然条件・漁業技術の相違、水産資源への時代的な需要、漁期の制限などの社会制度による影響の有無などの検討も行っていないため、その概要が示されたに過ぎない。また、明治12年資料によれば、当地方は漁業専門のものはほとんどおらず、半農半漁であったとされる。この記載が正しければ、農業の季節的なスケジュールなども漁期に影響があると考えられよう。このような事柄の漁期・漁場への影響については、十分な検討が必要である。さらに、浦尻貝塚ではほとんど出土していないが、近世～現代まで行われているサケ・マス漁についても、その様相を把握する必要があるだろう。

これらのことから、短絡的に今回の結果を縄文時代の漁業を反映しているとは当然いえないが、ここで記載された魚種は、縄文時代との共通性も高い。また、動力船以前の状況であるので、現代漁業より縄文時代に近い様相を持つといえる。よって、これまでの検討によって得られた内容は、縄文時代の漁業を考える参考資料として有益なものと言えるだろう。

さらに、今回の整理により同じ相双地方でも漁期や漁場にわずかながらも地域差がみられている。この地域差がどのような要因で生じたか、今後、自然条件だけではなく、民俗誌や文献資料、聞き取り調査などを踏まえ、検証していく必要がある。

(川田強)

附編2 引用・参考文献

- 佐々木長生（2004）「第4章 生業」『鹿島町史 第6巻 民俗』鹿島町
- 佐々木長生（2006）「海と川のなりわい」『原町市史 第9巻 特別編Ⅱ 民俗』南相馬市
- 福島県（1879?）『水産旧慣調』
- 福島県水産試験場（1995）『福島の海産動物方言集－魚の呼び名－』
- 宮島宏志郎（1970）「第2編 第5章 水産業」『福島県史 18 産業経済1』
- 村川友彦（1982）「明治12年水産旧慣調～明治初期の浜通り漁労習俗～」『福島県歴史資料館 研究紀要第4号』福島県文化センター
- 村川友彦（1983）「明治12年水産旧慣調（二）～明治初期の浜通り漁労習俗～」『福島県歴史資料館 研究紀要第5号』福島県文化センター